

I 実践

1 研究主題

他者への思いやりと感謝の心を育み、幅広い人間関係を築ける児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、全校児童35名という小規模校である。限られた人的環境の中で児童がより多くの人たちと人間関係を築けるようにするために、本校では、地域人材の活用を中心とした「地域重視」の指導の充実を力を入れてきた。そうした試みが互いの良さを認め合い、互いに支え合う温かい人間関係の育成につながってきている。そこで今年度も、体験活動を通して、差別や偏見の心を持たず、人を思いやる優しい気持ちが自然に出てくる児童を育てていきたいと考え本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 豊かな体験活動の展開
- イ 人権に関する啓発活動の充実
- ウ 人権意識を高めるための職員研修の充実

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の展開

ア 久慈川菜の花エコネットワーク推進事業への参加

今年度も地域を愛する心や態度を育てるために、地域と日立市の共催事業「久慈川菜の花エコネットワーク推進事業」に全校児童で参加し、取り組んできた。7月の刈り取り、8月のとうみ体験、10月の菜の花の種まきや12月の除草作業と児童たちは熱心に取り組む、地域の良さを再認識し、地域を愛する心の育成が図られた。



菜の花の刈り取り(7月)

イ 地域との交流（高齢者との会食交流会・地域人材を生かした体験学習・運動会）

本校では、児童が地域の方々とふれ合う機会が多く設定されている行事が多い。中でも、地区と共同実施する運動会(全学年)、地域の高齢者との会食交流会(2・3年)や地域の人材を生かした体験学習(全学年)では、地域との連携を深めながら取り組んだ。

(ア) 高齢者との会食交流会

地域の高齢者を学校に招き、交流会を実施している。今年度も2・3年生が企画・運営を担当し、音楽の発表や昔遊びを通して高齢者とふれあうことができた。



交流会での発表

(イ) 運動会

全校児童が35名という小規模校のため、5月の運動会は地域と共同実施という形式をとっている。児童は様々な種目を通して、地域の方々とふれあい、共に活動する楽しさを味わうことができた。

(ウ) 創立100周年記念行事

平成28年度は本校の創立100周年にあたり、地域との連携を深めながら100周年記念行事に取り組んできた。平成28年10月30日に実施した創立100周年記念式典では、創立70周年記念で埋設したタイムカプセルの開封、本校卒業生によるライブ演奏、フラダンス発表、そして全校で取り組んだ創作太鼓の発表などが行われ、児童は大きな自信と達成感を味わうことができた。取り組みの中で積極的に地域の方々に語りかける児童の姿が見られた。



招待者の受付をする児童



創作太鼓の演奏

(エ) 地域人材を生かした体験学習

地域の人材を生かした陶芸体験学習は、実施して6年目である。地域の陶芸家を講師に招き、児童たちは発達段階にあった陶芸作品作りを楽しんでいる。

今年度は、1月19日に実施予定である。

ウ 異学年との交流活動（たてわり班の清掃活動等）

本校では、週に2回(水曜日・金曜日)の清掃活動をたてわり班で行っている。高学年は低学年の面倒をよくみている。また、東小沢っ子タイム(毎週火曜日、ロング昼休み)での集団遊びでも異学年交流が積極的に行っている。

エ あいさつ運動や募金活動

計画委員会の児童が中心となって「朝のあいさつ運動」を毎週水曜日・金曜日に昇降口で実施した。今年度は、11月のいばらき教育月間に合わせ、全児童を低中高の3グループに分け、あいさつ運動に取り組んだ。また、保健委員会を中心に緑の羽根・赤い羽根などの各種募金活動も積極的に取り組んだ。

(2) 人権に関する啓発活動の充実

ア 人権作品展（メッセージ・標語・ポスターなど）への取り組みについて(7～11月)

人権意識を高めるための啓発活動に取り組んでいる。今年度は、図書委員会が中心となって読書集会を開き、人権に関する本の読み聞かせを行った上で人権に関する標語づくりに全校児童で取り組み、計画委員会が優秀作品を選考して全学級に掲示物として作成し掲示するようにした。また、

イ 人権学習（読み聞かせ）の実施

人権教育を意識した読み聞かせを定期的実施した。押しつけではない自然な形で児童に人権意識が芽生えることを意識して取り組んだ。



読み聞かせ

(3) 人権意識を高めるための職員研修の充実

ア 全職員で取り組む校内研修等

校内研修の時間や生徒指導の情報交換の中で、事例研修を行い教職員の人権意識を高めるようにした。

イ 年間指導計画の見直し

「人権教育に関わる年間指導計画」を学年ごとに検討している。特に女性・子ども・高齢者・障害者・同和問題・東日本大震災等の人権侵害の見直しを継続して行っている。

3 成果

(1) 地域との多くの交流や異学年交流を通して、好き嫌いとらわれずに、誰に対しても公正・公平にふるまい、仲良く生活する態度を育てることができた。

(2) 「久慈川菜の花エコネットワーク推進事業」や「あいさつ運動」などにみられるように、自分たちが地域の一員であるという児童の自覚を高めることができた。

II 今後の課題

(1) 各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、人権に関する学習をよりいっそう充実させ、児童一人一人の人権意識のさらなる高揚を図るための取り組みを計画的・継続的に実践していきたい。

(2) 児童が地域の一員であるという自覚をさらに高めていく手立てを意図的に展開していきたい。

(3) 人権意識を高めるための職員研修を計画的・継続的に実施し、人権教育について共通の認識が持てるようにしていきたい。

III 人権コーナーの設置

本校では「人権コーナー」という名称では設置していないが、道徳的な内容を含んだ「こころのまど」を中央階段下に設置し、学校行事に関して児童が励んだ事などを写真や児童の感想などを紹介し、人権教育の啓発活動を行っている。



【こころのまど】